

日本海沿岸「ヌタ」情報

2018/4/26, No.5

大型珪藻コスキノディスクス(CW)発生の終息について

中央水産試験場資源管理部

3月中旬から4月上旬に、余市前浜で「ヌタ」発生の原因となる大型珪藻コスキノディスクス(CW, 図1)の大量発生を2年ぶりに確認しましたが、このたび発生が終息しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

CWは3/19, 3/28および4/3に千細胞/Lを超えて出現しましたが(図2), 4月中旬以降急減し, 下旬には検出されなくなりました。例年の小型種による珪藻ブルームもほぼ終息(=栄養塩が枯渇)したと推察されることから, CWが再び増殖する可能性は低いと考えられます。

以上から, 粘液状付着物「ヌタ」の新たな発生の可能性は低いと考えられます。一方, 融雪水の流出は続いているため, 汽水性ミドリムシがごく沿岸でアオコ状の赤潮を形成する可能性がありますのでご注意ください。

(連絡先: 海洋環境グループ, TEL.0135-23-4020)

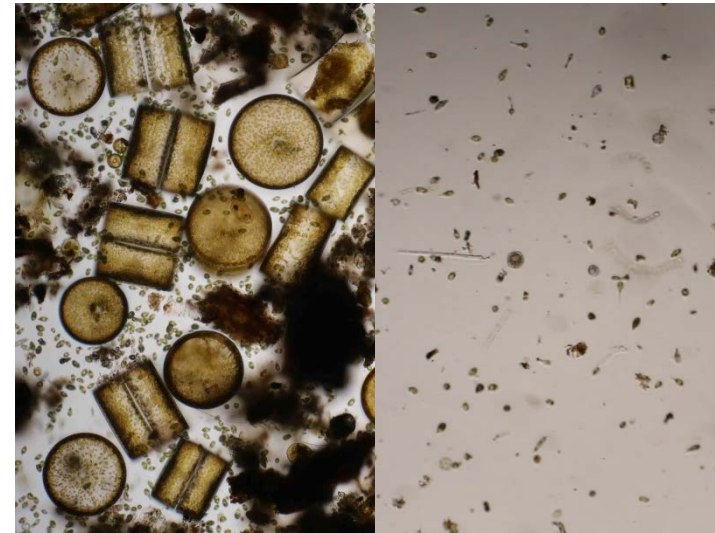


図1. 左: 3/28余市前浜に出現した大型珪藻CW(出現数1110細胞/L)
右: 4/25 CW消滅後, 汽水性ミドリムシと小型珪藻が出現

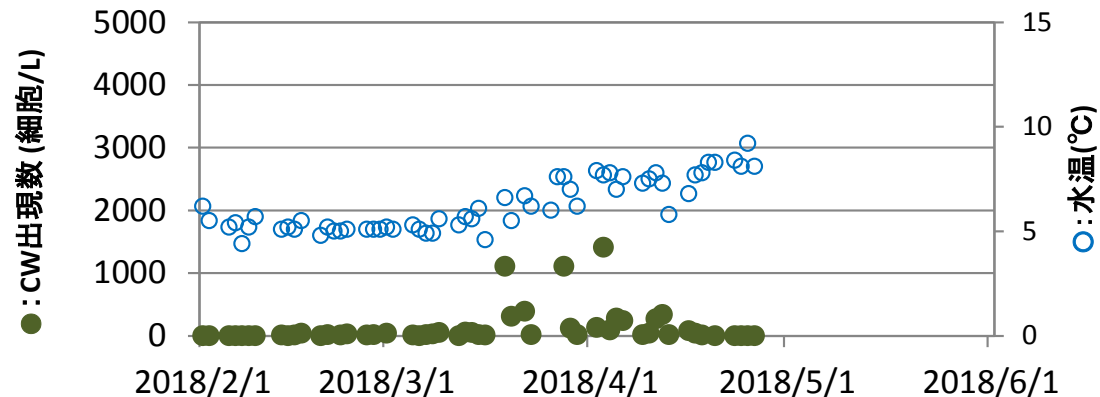


図2. 余市前浜における大型珪藻CW出現数および表面水温の推移

日本海沿岸「ヌタ」情報

2018/4/13, No.4

大型珪藻コスキノディスクス(CW)の大量発生について

中央水産試験場資源管理部

3月中旬以降、余市前浜で「ヌタ」発生の原因となる大型珪藻コスキノディスクス(CW, 図1)の大量発生が確認されています。本種の大量発生は2013および2016年に記録されており、今回は2年ぶりの発生です。

CWは3/19に水温の上昇とともに千細胞/Lを超えて出現し(図2), 3/28および4/3に同レベルの出現が記録されています。昇温とともに沿岸に出現したことから、対馬暖流の影響下にある沖合で増えたCWが沿岸に来遊した可能性があります。直近においても百細胞/Lレベルの出現が続いていることから、CWの出現はしばらく続く可能性があります。

以上から、2013年春同様に、降雨・融雪に伴う河川水(濁水)の流出と重なって、粘液状付着物「ヌタ」が発生する可能性がありますので、漁網等の管理にご注意下さい。また、汽水性ミドリムシがごく沿岸でアオコ状の赤潮を形成する可能性がありますので、併せてご注意下さい。

(連絡先: 海洋環境グループ, TEL.0135-23-4020)

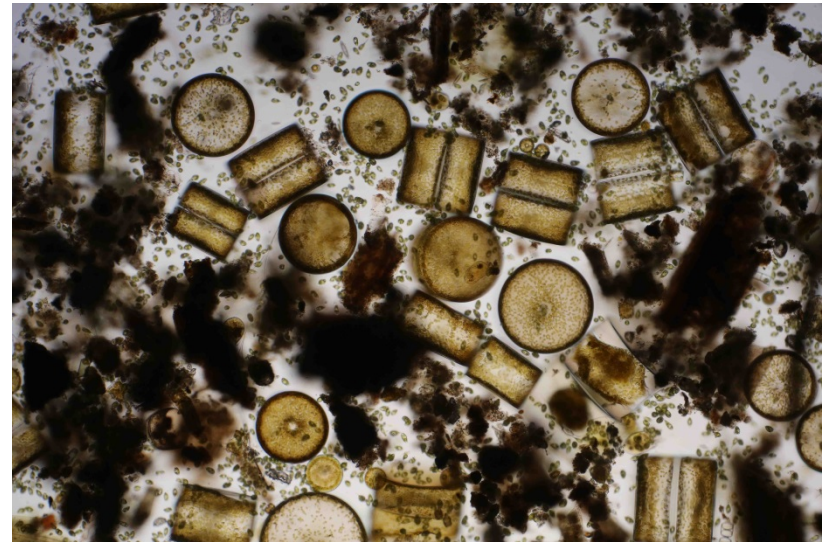


図1. 3/28余市前浜に出現した大型珪藻CW(出現数1110細胞/L)背景の細かな顆粒状の生物は汽水性ミドリムシ

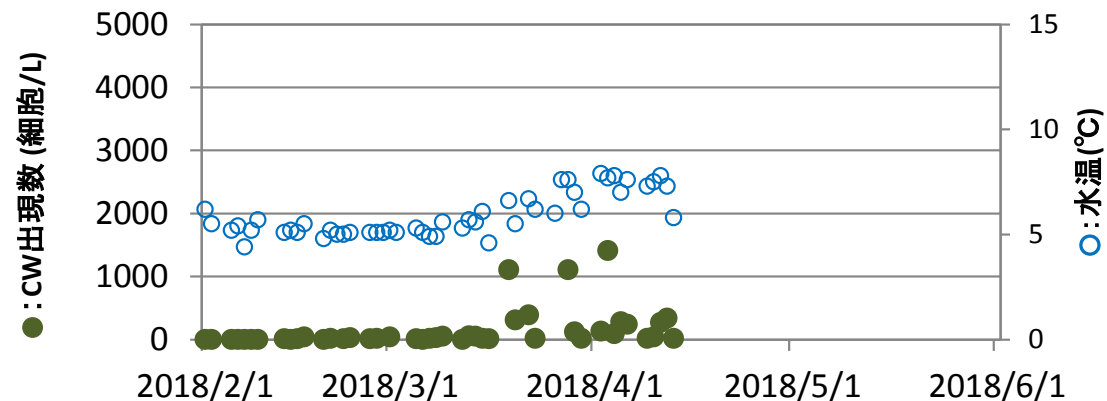


図2. 余市前浜における大型珪藻CW出現数および表面水温の推移